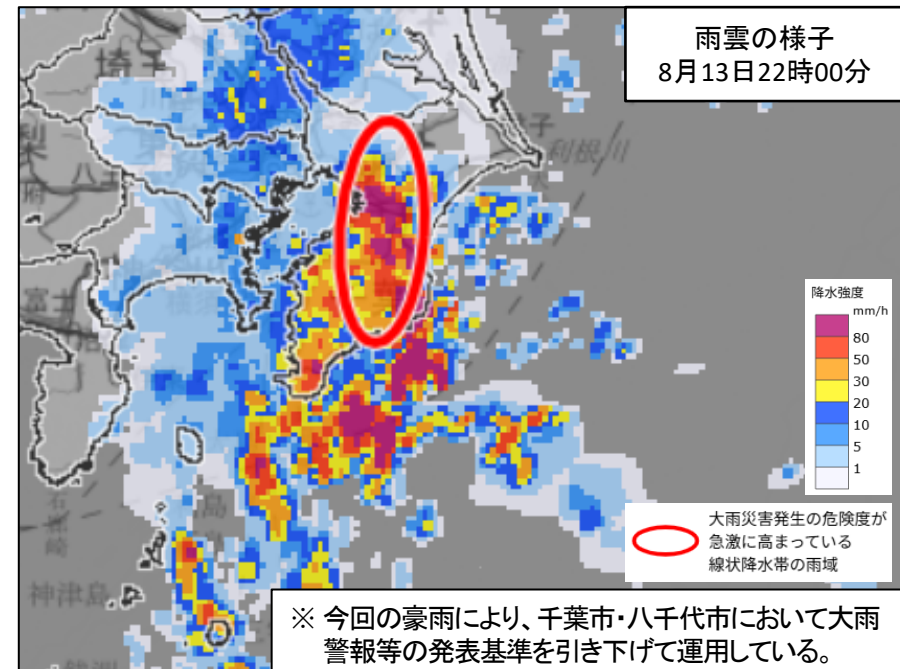
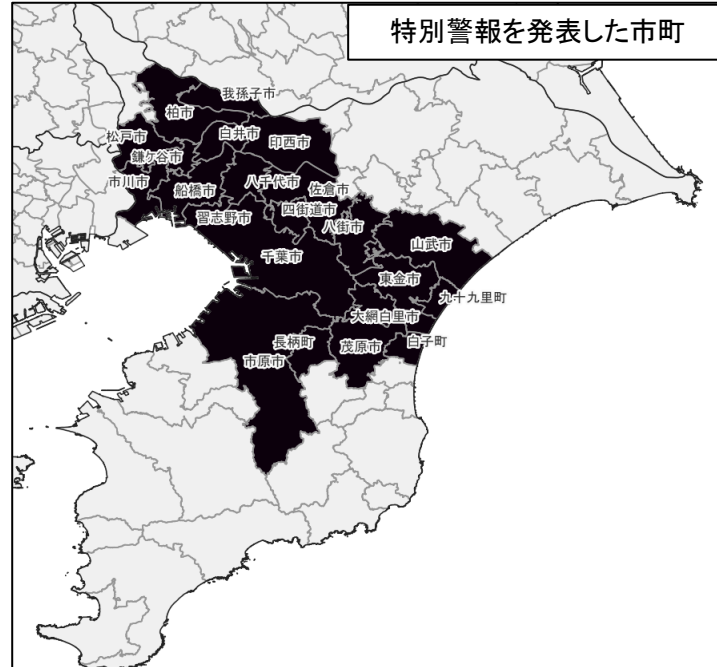


令和8年8月千葉豪雨への対応について

令和8年8月千葉豪雨

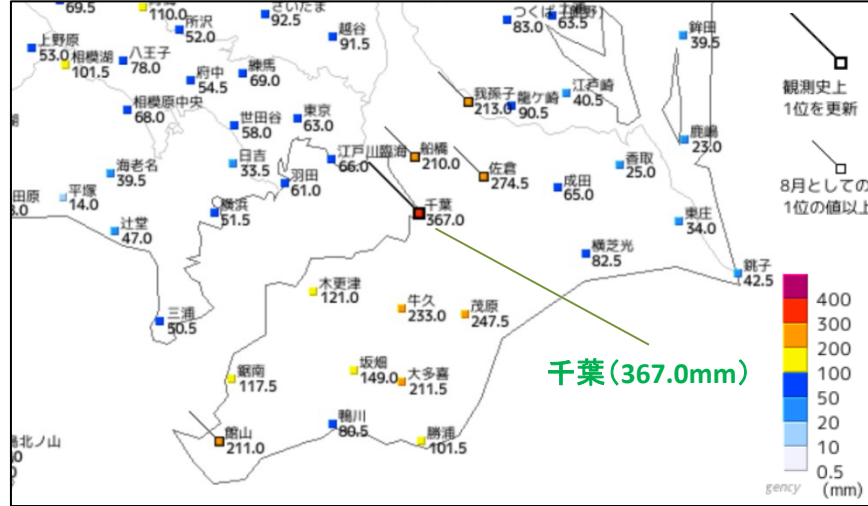
- 千葉県では13日夕方以降、線状降水帯が発生し雨雲が長時間同じ所で停滞したため記録的な大雨となった所があり、特に千葉市では、平年の8月の総降水量の3倍以上となる360ミリを超える降水量を観測し、観測史上1位を更新した。
- この記録的な大雨により、千葉県には13日19時30分から14日05時15分にかけて、レベル5大雨特別警報やレベル5土砂災害特別警報を広い範囲に発表。
- 13日は、この時期としては強い上空の寒気や、高気圧の縁を回り東から入る暖かく湿った空気により、雨雲が発達した。関東地方内陸部で日中の雨や雷雨により発生した下層の冷たい空気の影響で、この雨雲が西に動かず同じ地域に停滞したため、降水量が急激に増加した。



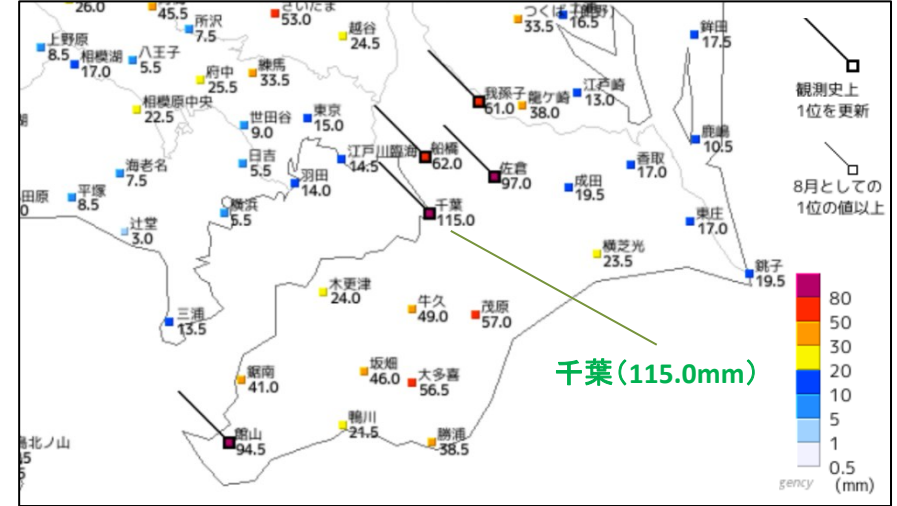
※参考 令和8年8月千葉豪雨(気象概要)

内閣府(防災担当)
令和8年9月11日(金)
令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた
内水氾濫対策検討会(第1回)資料(抜粋)

【雨】期間内の24時間降水量最大値 (8月13日00時～8月14日24時)



【雨】期間内の1時間降水量最大値 (8月13日00時～8月14日24時)



順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ) ※ 1	367.0	2026/8/14 10:00
2	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ) ※ 2	274.5	2026/8/14 16:40
3	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	247.5	2026/8/14 03:30
4	千葉県	市原市	牛久(ウシク)	233.0	2026/8/14 04:00
5	千葉県	我孫子市	我孫子(アビコ) ※ 2	213.0	2026/8/14 10:20
6	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	211.5	2026/8/14 03:50
7	千葉県	館山市	館山(タデヤマ) ※ 2	211.0	2026/8/14 09:20
8	千葉県	船橋市	船橋(フナバシ) ※ 2	210.0	2026/8/14 06:40
9	埼玉県	大里郡寄居町	寄居(ヨリイ)	199.5	2026/8/13 00:10
10	群馬県	高崎市	榛名山(ハルナサン)	163.5	2026/8/13 01:30

順位	都道府県	市町村	地点	観測値	
				mm	年月日 時分(まで)
1	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ) ※ 1	115.0	2026/8/13 18:48
2	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ) ※ 1	97.0	2026/8/13 19:31
3	千葉県	館山市	館山(タデヤマ) ※ 1	94.5	2026/8/13 21:53
4	千葉県	船橋市	船橋(フナバシ) ※ 1	62.0	2026/8/13 18:43
5	千葉県	我孫子市	我孫子(アビコ) ※ 1	61.0	2026/8/13 14:30
6	千葉県	茂原市	茂原(モバラ)	57.0	2026/8/13 21:34
7	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	56.5	2026/8/13 21:24
8	埼玉県	さいたま市桜区	さいたま(サイタマ)	53.0	2026/8/13 15:44
9	栃木県	小山市	小山(オヤマ)	51.0	2026/8/13 12:14
10	広島県	三次市	三次(ミヨシ) ※ 2	50.5	2026/8/13 17:10

※1:観測史上1位の値を更新した地点を示す。※2:これまでの8月の1位の値を更新した地点を示す。

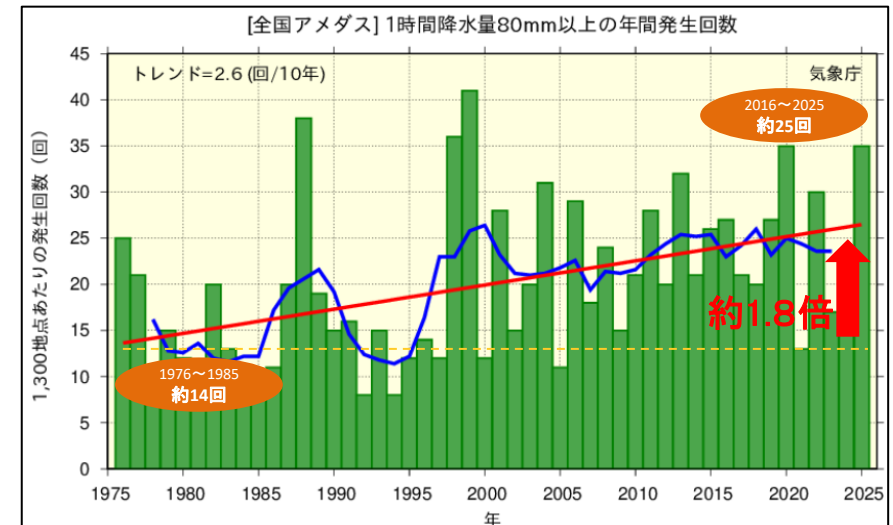
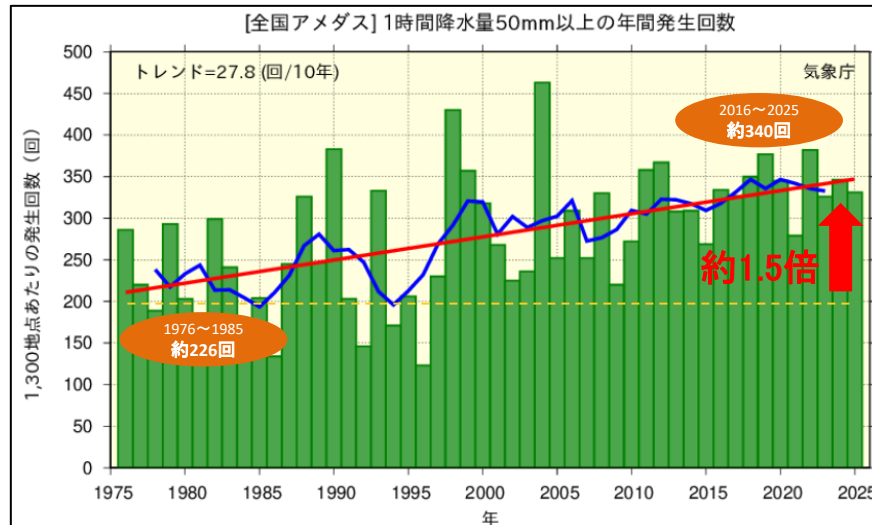
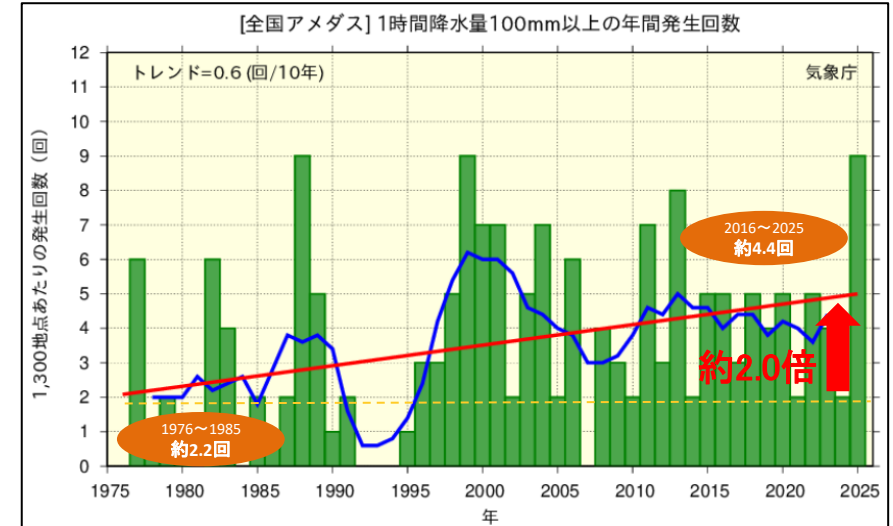
出典:気象庁

※参考 全国の大雨の発生頻度の変化

内閣府(防災担当)
令和8年9月11日(金)
令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた
内水氾濫対策検討会(第1回)資料(抜粋)

- 全国の1時間降水量50mm以上、80mm以上、100mm以上の年間発生回数は増加傾向にある。

1時間の 雨量	年間発生回数(平均)	
	1976～1985年	2016～2025年
100mm 以上	約2.2回	約2.0倍 → 約4.4回
80mm 以上	約14回	約1.8倍 → 約25回
50mm 以上	約226回	約1.5倍 → 約340回



マンションや病院の地下浸水

内閣府(防災担当)
令和8年9月11日(金)
令和8年8月千葉豪雨等を踏まえた
内水氾濫対策検討会(第1回)資料(抜粋)

- ・ マンションの地下に設置された電気設備の浸水による、停電の発生
- ・ 千葉市の多数のマンションでは停電に伴う断水、エレベーター停止等が発生
- ・ 浸水想定区域外であった千葉大学医学部附属病院において、地下にあった排水管や、ポンプ・電気基板が泥水をかぶって故障し、手術等に支障が生じる等、多数の病院で浸水被害が生じた。

セントマーガレット病院(八千代市)の被害状況

13日	19:30	・ 外は90cm~160cm程度まで水量が上昇 ・ ボイラー冠水 ・ 揚水ポンプ冠水 ・ 一部の空調機器冠水 ・ MRI室、サーバー室浸水継続 ・ 浸水圧力により霊安室側出入口ドア破損
	23:00	・ 浸水止まらず、水量がコンセントに至り、漏電および感電の危険性がある為、地下対応中止
14日	—	・ 水道 揚水ポンプ使用不可 ・ 胃カメラ 中止 ・ 透析 中止

出典：セントマーガレット病院HP



出典：セントマーガレット病院



出典：セントマーガレット病院

千葉大学医学部附属病院(千葉市)

出典：千葉市 内水氾濫想定データに加筆



【参考】直近の大雨・台風による住家被害(消防庁情報)

令和8年8月千葉豪雨による被害

(令和8年9月9日(水) 12時00分時点)

都道府県	住 家 被 害					
	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部破損	合計
	棟	棟	棟	棟	棟	棟
埼玉県			2	35	1	38
千葉県	12	2,183	1,052	2,701	272	6,220
合 計	12	2,183	1,054	2,736	273	6,258

令和8年台風第25号による被害

(令和8年9月25日(金) 8時00分時点)

都道府県	住 家 被 害					
	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部破損	合計
	棟	棟	棟	棟	棟	棟
茨城県			2	40	3	45
埼玉県				1		1
千葉県	27	39	517	367	39	989
東京都			3	1	2	6
神奈川県	3				4	7
宮崎県				1	2	3
合 計	30	39	522	410	50	1,051

令和8年8月27日からの大雨、

令和8年台風第24号及び前線による大雨被害

(令和8年9月18日(金) 15時00分時点)

都道府県	住 家 被 害					
	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	一部破損	合計
	棟	棟	棟	棟	棟	棟
青森県			36	109		145
秋田県		1	1	20	2	24
福島県				5		5
茨城県	1		1	59	0	61
栃木県				2		2
千葉県				3	3	6
東京都			1			1
富山県	4	5	186	444		639
石川県			228	686		914
福井県			214	1,196	1	1,411
山梨県				1		1
長野県			1	3		4
岐阜県			5	3	1	9
愛知県			396	593	10	999
三重県						
和歌山県				7		7
島根県				2		2
鹿児島県				1	2	3
合 計	5	6	1,069	3,134	19	4,233

- 以下について、調査を実施予定。
 - ・ 建築物への浸水による電気設備等への被害状況や対応状況についてのヒアリング調査（所有者の同意が前提）
 - ・ 令和2年に策定した「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」の活用状況と課題の把握
- 調査を踏まえ、既存建築物を含め、ハード・ソフト両面からの対策を検討。

(参考)「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」について ①

経緯

- 令和元年東日本台風（第19号）による大雨に伴う内水氾濫により、首都圏の高層マンションの地下部分に設置されていた**高圧受変電設備が冠水し、停電**したことにより**エレベーター、給水設備等のライフラインが一定期間使用不能**となる被害が発生。
- こうした建築物の浸水被害の発生を踏まえ、**国土交通省と経済産業省の連携**のもと、学識経験者、関連業界団体等からなる「**建築物における電気設備の浸水対策のあり方に関する検討会**」を設置し、浸水対策のあり方を検討。
- 令和2年6月、「**建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン**」をとりまとめ、両省より、日本建設業連合会、マンション管理業協会、日本電気協会等の関連業界団体等に対して周知を実施。

ガイドライン概要（1）

1.適用範囲

- ・高圧受変電設備等の設置が必要な建築物
- ・新築時、既存建築物の改修時等

2.目標水準の設定

- ・建築主や所有者・管理者は、専門技術者のサポートを受け、目標水準を設定。
- ・以下の事項を調査し、機能継続の必要性を勘案し、想定される浸水深や浸水継続時間等を踏まえ、設定浸水規模を設定。（例：〇〇cmの浸水深）
 - ✓国、地方公共団体が指定・公表する浸水想定区域
 - ✓市町村のハザードマップ（平均して千年に一度の割合で発生する洪水を想定）
 - ✓地形図等の地形情報（敷地の詳細な浸水リスク等の把握）
 - ✓過去最大降雨、浸水実績等（比較的高い頻度で発生する洪水等）
- ・設定した浸水規模に対し、機能継続に必要な浸水対策の目標水準を設定（建築物内における浸水を防止する部分（例：居住エリア）の選定等）。

3. 浸水対策の具体的取組み

設定した目標水準と個々の対象建築物の状況を踏まえ、以下の対策を総合的に実施。

①浸水リスクの低い場所への電気設備の設置

- ・電気設備を上階に設置

②対象建築物内への浸水を防止する対策

建築物の外周等に「水防ライン」を設定し、ライン上の全ての浸水経路に一体的に以下の対策を実施

（出入口等における浸水対策）

- ・マウンドアップ
- ・止水板、防水扉、土嚢の設置

（開口部における浸水対策）

- ・からぼりの周囲への止水板等の設置
- ・換気口等の開口部の高い位置への設置等

（逆流・溢水対策）

- ・下水道からの逆流防止措置（例：バルブ設置）
- ・貯留槽からの浸水防止措置（例：マンホールの密閉措置）



マウンドアップ



脱着型止水板



防水扉



止水処理材

ガイドライン概要(2)

③電気設備設置室等への浸水を防止する対策

水防ライン内で浸水が発生した場合を想定し、以下の対策を実施

(区画レベルでの対策)

- ・ 防水扉の設置等による防水区画の形成
- ・ 配管の貫通部等への止水処理材の充填

(電気設備に関する対策)

- ・ 電気設備の設置場所の嵩上げ
- ・ 耐水性の高い電気設備の採用

(浸水量の低減に係る対策)

- ・ 水防ライン内の雨水等を流入させる貯留槽の設置

4.電気設備の早期復旧のための対策

想定以上の洪水等の発生による電気設備の浸水に関して以下の対策を実施。

(平時の取組)

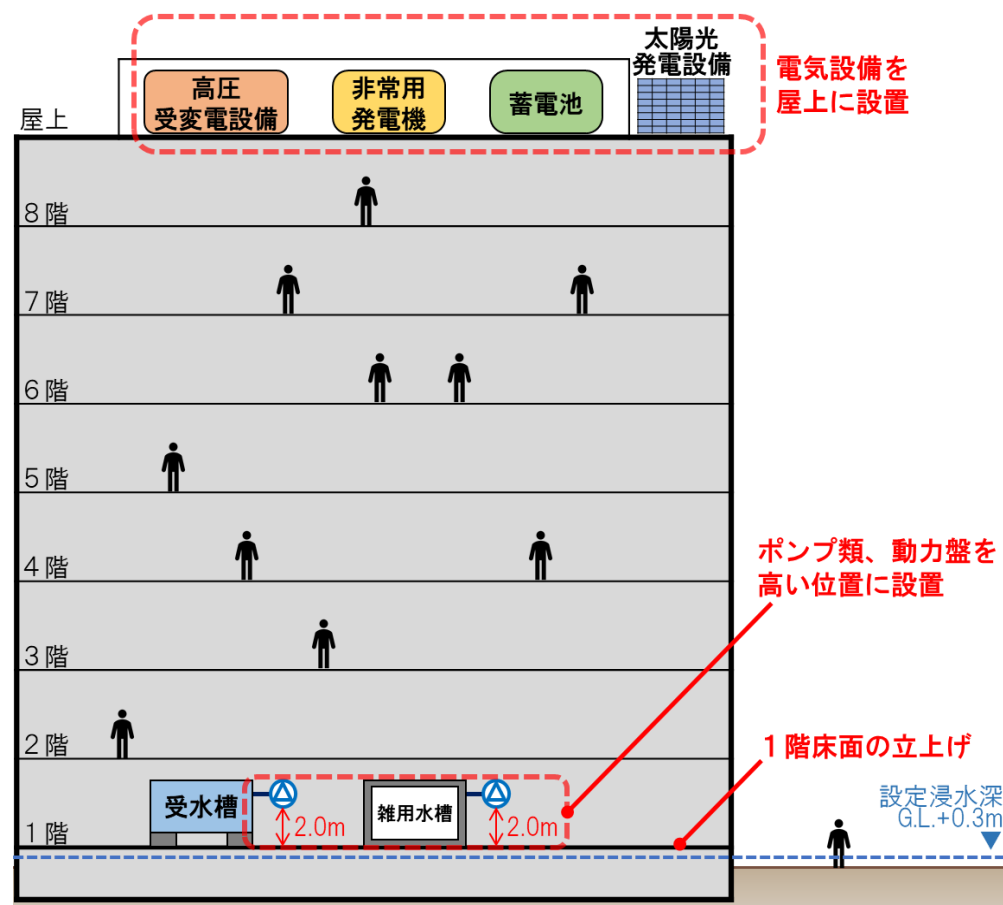
- ・ 所有者・管理者、電気設備関係者の連絡体制整備
- ・ 設備関係図面の整備 等

(発災時・発災後の取組)

- ・ 排水作業、清掃・点検・復旧方法の検討、
- ・ 復旧作業の実施 等

※参考資料集

様々な用途の建築物におけるモデル的な取組みの事例集をガイドラインの別冊として策定



電気設備等を屋上に設置した事例(オフィスビル、大阪市)